

令和7年度第1回富山県環境審議会水環境専門部会 議事概要

1 日時

令和8年2月18日（水）13時30分から15時まで

2 場所

富山県民会館704号室（オンライン併用）

3 出席者

委員等：楠井専門部会長、加賀谷委員、加藤特別委員（代理：国土交通省北陸地方整備局企画部 田邊環境調整官）※、倉光専門員、黒田専門員※、高橋専門員、中山専門員※

※オンライン参加

事務局：中島生活環境文化部次長、吉森参事・環境保全課長ほか

4 議事

(1) 令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画の作成について

事務局から、資料1-1～3及び参考資料1～4について説明後、質疑応答が行われた。

令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画については、県の原案に対して異議がない旨を決議した。

(2) 富山県水質環境計画の進捗について

事務局から、資料2及び参考資料6-1～2について説明後、質疑応答が行われた。

5 主な意見、質疑応答

(1) 令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画の作成について

【委員等】

海域のCODの環境基準未達成について、内部生産が活発になる期間が長くなったと考察しているが、過去10年程度のトレンドで内部生産の経年変化等について高精度に解析・評価はしているのか。環境科学センターや富山大学、富山県立大学、NPEC、水産研究所等が実施しているのではないかと。

【事務局】

クロロフィルaとの相関を確認しているのは県が直接測定した直近のデータだけであり、過去のデータを含めて広く見れていない。今後は過去データや他の研究機関の成果も併せて考察をしていきたい。

【委員等】

大腸菌数について、令和7年9月に県東部の河川で特に高い値が出ているが、原因は

分かっているのか。また、令和5年度に環境基準未達成対策実証事業として農業集落排水処理施設と畜産農場の指導を行い、塩素消毒により大腸菌数の値が下がったと報告していたが、まずはそういったピンポイントの対策を行ったらよいのではないか。

【事務局】

令和7年9月に県東部の河川で高い値が出た件については、採水の3時間ほど前に強めの降水があったため、野生動物の影響があった可能性も考えているが、山間部を経由しない黒瀬川については分かっていない。

また、農業集落排水施設や畜産農場については塩素消毒が不十分であったため指導を行ったが、以降は定期的にヒアリングを行い、排水の基準値超過がないことを確認しており、特定の発生原因以外の影響が大きいのではないかと考察している。

【委員等】

大腸菌数について、過去に実施した対策実証事業のような施策を令和8年度に新規に行う予定はあるか。

【事務局】

測定計画外ではあるが、いずれかの河川で支川との合流部や上流・下流など数地点で測定をすることを検討している。有識者とも相談して検討していきたい。

【委員等】

海域のCODについて、海水温の月毎の変動を10年以上プロットした際に、水温の高い状態が徐々に尾を引くような形で秋口にシフトしているのかどうか、そういったデータがあると考察の材料になると思う。そういったデータがクロロフィルaの細かいデータと相関があるのかどうか、環境科学センター等の各研究機関のデータと総合していくと見えてくるものがあるのではないかと思う。

河川の大腸菌数について、降水後に採水を行うと検出されるとの説明があったが、遠方に出向いて採水する都合、なかなか難しいところではあるかと思うが、降水後の採水を避けることはできないかと感じた。年4回の測定で1回超過をした時点で基準未達成となってしまう状況の中、別日に採水をしてどうなるのかというところを見た方が現実的ではないかと思う。また、野生動物が超過原因だった場合、おそらく対策はできないと思われるが、自然由来としてやむを得ないとするのか、どう評価するのか、考えがあれば教えて欲しい。

【委員等】

微生物マーカーを利用した大腸菌の由来の把握については、研究は進んでいるものの、確信的なところまでは至っていない状況ではあるが、研究の進展をただ待つのではなく、学識者の成果も取り入れながら検討を進めていただきたい。

【委員等】

P F A Sの実態調査について、P F A Sについては局所的な汚染になるかと思うが、どのような地点で採水を行ったのか。

【事務局】

河川については、県、富山市ともに通常の河川調査に併せて採水を行っており、7月

の調査に併せて調査を行った。そのため地点も通常の河川調査と同じ地点となっている。

地下水についてはローリングで実施している概況調査に併せて採水を行っている。実際の調査年度とは異なるが、資料1-2の22ページに概況調査にある図のメッシュの中の各1点で調査をしており、11~12月に行った。

【委員等】

地下水については網羅的に調査を実施しているという認識でよいか。

【事務局】

平野部については網羅的に実施している。事業所や消防署等の発生源になり得る地点も、4地点の地下水流上の下流側直近の井戸で実施している。

【委員等】

海域のCODについて、海水温の上昇が原因であるのであれば、他県、特に近県のデータと比較して、富山県特有の現象なのかを検証していくと見えるものがあるのではないかな。

また、大腸菌数について、野生動物が原因であれば上流の値が高くなると思うが、以前のデータからはそのような印象を感じなかったため、野生動物ではなく、人為活動によるものではないかと思う。畜産系排水への対策が効果的であったという記憶があるが、浄化槽のような広く分布しているものが原因ではないかと感じた。本日のデータは令和6年度及び7年度のデータのみであったが、以前のデータと比べて、経年的なデータを俯瞰的に見ていくことが必要である。

【委員等】

海域のCODに関して、富山湾の水温を気象庁のデータから引用しているが、このデータは富山湾を代表しているものなのか、河川からの影響を反映しているものなのか、どう捉えたらよいか。

【事務局】

水温については、富山湾の月間の平均値になる。採水日によって状況は異なるため、このデータだけで評価するのは難しく、採水日前後の状況も詳しく確認しないと結論は出ないと思っている。

【委員等】

大腸菌数について、野生動物の冬眠の影響に触れていたが、冬眠するのはクマだけであり、それ以外のカモシカやイノシシなどの中~大型動物は冬眠しない。野生動物が大腸菌数にどれだけ寄与しているか分かっていない状況ではあると思うが、違和感があった。

【事務局】

大腸菌数については、先ほどの倉光専門員からもご指摘があった浄化槽の分布状況と大腸菌数の超過状況についていくつかの河川で分析を試みたところ、あまり相関が見られなかったことから、微生物関係の学識者に相談したところ、野生生物や降雨の影響について助言いただいたものである。当然、野生動物だけで結論付けるのは難しいと考えているので、今後は、浄化槽も観点に入れて分析を行っていきたい。

【委員等】

特にご意見がなければ、令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画については、事務局の原案どおりということによろしいか（各委員等了承）。

【委員等】

異議なしということで、ただいま決議したとおり、環境審議会に報告を行いたい。報告の手続きについては、私にご一任をお願いしたい（各委員等了承）。

(2) 富山県水質環境計画の進捗について

【委員等】

計画の指標の内、水質環境基準達成率について「100%を維持」としているが、現状、海域は100%になっていないことから、海域の環境基準達成率100%をどう評価するかということは今後の議論になるという認識でよいか。

【委員等】

今後議論する内容だと思っている。

【委員等】

水質事故について、交通事故由来というのは車両の交通事故によるものということか。車両事故により水質汚濁事故が発生するということであれば、道路等の構造物と水域の関係を見直す必要があると思うが、どうか。

【事務局】

大型トラック等が事故を起こした際、流出した燃料の軽油等が側溝を通じて河川に流出してしまう案件も水質汚濁事故の定義に入ってしまうため、事故に計上をしている。また、古くなった船の燃料タンクが破損して海域に流出した事例等も交通事故由来として計上している。